

市民協働事業提案制度 自己評価シート

令和6年度実施事業

作成日 2025年 2月 10日

事業名	3Rにつながる暮らし講座
記載団体 又は担当課	廃棄物対策課

※評価点（5段階）の基準

5点：（十分に達成）達成度80%以上 / 4点：達成度60%～79%

3点：（一部に問題はあるが概ね達成）達成度40%～59% / 2点：達成度20%～39%

1点：（達成度が著しく低い）達成度20%未満

■（1）市民協働の観点から

評価項目	評価点	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①目的は共有できましたか。	5	ごみの減量に向け、市民に対し「3R」を啓発するという目的の下、どうしたら日常生活で「3R」を実践してもらえるかを考え、家庭の目線で誰でも共感できる「片づけ」をテーマにした講座を企画していただいた。
②役割分担は適切にできましたか。	5	団体は講座の企画・運営、市は講座の広報・会場の手配など、役割分担は適切であった。
③十分な意思の疎通が図られましたか。	5	企画段階から密に連絡をとり、合同でリハーサルを行い、詳細を確認しながら、市の意図や希望を十分に取り入れていただいた。
④対等であることを理解し、良好で持続可能な関係を築き事業を実施できましたか。	5	昨年度まで市民協働事業提案制度による講座を開催していただいたこともあり、信頼関係を築けていると認識している。本事業においても、良好で持続可能な関係の上で事業を実施できた。
⑤市民サービスの向上が果たせましたか。 また、相乗効果・波及効果が得られましたか。	4	本事業の目的は、ごみ減量に向け市民の意識醸成を図ることであり、市民サービスの向上に直結するものではない。一方で、団体が持つ「生活の知恵」と市が行う「ごみ処理（ごみの行方）」を掛け合わせることで、片づけて不要になったものをリユースするなど、一歩踏み込んだ3Rの啓発を行うことができた」と評価している。

評価の流れ

自己評価シート

→

相互評価シート

■ (2) 事業内容の観点から

評価項目	評価点	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①目的・目標は達成できましたか。	4	日常生活における「3R」を推進するという目標は達成できたと評価している。 しかし、今年度は3地区での実施に留まっており、今後すべての地区での実施を視野に、事業を推進していく。 内容については、デジタル推進の観点からアプリを活用したりユースを紹介するなど、更に充実させる余地があると考える。
②スケジュールどおりに実施できましたか。	5	スケジュールどおりに実施できた。 スケジュールの設定に当たっては、お互いに確認しながら無理のないスケジュールを設定した。
③-行政 事業の費用対効果はどうでしたか。 ③-市民活動団体等 提案事業実施にあたり事業費積算は妥当でしたか。	5	1から講座を企画していただき、スライドや展示物の準備、生活での実践など、限られた予算の中で最大限の効果を生み出していただいた。 また、定員を超える申し込みがあり、多くの市民に啓発することができた。
④事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価が分かる場合)	4	<small>※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など</small> 「片づけ」というテーマは、個人で意識の程度に差があるため、受講者アンケートでは「既実践している」という声も少なくなかった。 このような受益者の満足度を高めるため、市によるごみの行方や分別に関する話を取り入れるなどの工夫を行った。

■ (3) その他、課題や改善方法など

コロナ禍を経て、「片づけ」や「断捨離」に興味のある市民が増えていると考えられる。今回の内容をベースにしつつ、もともと意識の高い受講者にも満足してもらおうという視点を持ち、講座の内容の見直しを行っていきたい。